

会議録	
会議名	第6回三豊市地域公共交通活性化協議会
日時	令和3年5月31日（月）15時～16時40分
場所	三豊市危機管理センター201・202会議室
出席者	<p>[委員] 15名 宮崎耕輔（会長）、紀伊雅敦（副会長・オンライン出席）、綾章臣、鴨田嘉史、峰久数俊、南壮憲、鹿兒島康一、萬藤満、齊藤亮、戸城浩二、藤川泰文、滝口直樹、藤井浩基（岩崎委員代理）、山本悟史（手嶋委員代理）、五領田和夫</p> <p>[事務局] 4名 交通政策課（石原課長、細川課長補佐、金藤主任、田尾副主任）</p> <p>[委託業者] 2名 株式会社地域未来研究所（小野田、義浦）</p>
議事	<ul style="list-style-type: none"> ・三豊市地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について ・令和2年度事業報告・収支決算及び会計監査報告について ・令和3年度事業計画及び収支予算について ・三豊市地域公共交通計画の目標について

発言者	会議要旨
事務局	<開会>
事務局	委員紹介
宮崎会長	1. 会長挨拶
事務局	2. 議事
事務局	(1) 三豊市地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について
事務局	<説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。
事務局	<質問・意見等は特になし、原案承認>
事務局	(2) 令和2年度事業報告・収支決算及び会計監査報告について
事務局	<説明>
齊藤委員	<監査報告>

宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。
	<質問・意見等は特になし、原案承認>
事務局	(3) 令和3年度事業計画及び収支予算について <説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。
	<質問・意見等は特になし、原案承認>
事務局	(4) 三豊市地域公共交通計画の目標について <説明> パターン①（コロナ禍（2020年度）を水準とする場合）と、パターン②（コロナ禍前（2019年度）を水準とする場合）について
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。
南委員	目標値について、パターン①のようにコロナ禍の厳しい状況を水準にするよりは、公共交通利用者等も5年後は100%ではないが戻ってくると思われるため、パターン②のコロナ禍前を水準とした目標値設定が良いのではないかと。 成果指標にコミュニティバス利用者数と主要施設最寄りバス停の乗降者数があるが、利用者数と乗降者数で違いはあるか。鉄道は乗車人員としている。
事務局	コミュニティバスの利用者数は、乗降者数を示している。
鴨田委員	コミュニティバスは、昨年は学校の休校等により利用者が少なく厳しい状況にあったが、今年は学校が通常通りであるため、昨年と比べると利用されている状況にある。6月から乗降調査が実施されるため、数値として明らかになるのではないかと。タクシーは高齢者の利用が多く、買い物回数を減らす等されているが、今年はどうにか運営できている状況にある。貸切バスは壊滅的でまったく仕事がなく、秋の学校行事も不透明な状況にある。
藤井代理	コロナの影響によるバスやタクシーの落ち込みはどのくらいか。
事務局	基本構想に鉄道の乗車人員の推移、コミュニティバスの利用者数の推移、航路の利用者数の推移をそれぞれ掲載しているので参考にさせていただきたい。

南委員	J Rにおいては、4月の社長定例会見での発表でもあった通り、収入ベースで年度累計 44.6%と半分以上まで落ち込んでいる。
峰久委員	航路について、栗島汽船の利用者は現在1便当たり5~6人ぐらいで、一昨年の半分以上まで減少している。平日は通勤目的である程度利用されているが、土日は外出自粛のため利用が少ない状況にある。
事務局	補足として、航路の利用者数について、3年に1回、瀬戸内国際芸術祭が開催されている年は、突出して利用者が多い状況にある。
宮崎会長	公共交通の利用者数は生活交通と広域交通で利用実態が異なるため分けて考える必要がある。雇用形態によっても乗車券の購入方法等は異なっており、例えば非正規雇用者は、定期ではなく回数券を購入するケースが多い。鉄道会社によっては、駅別に売上高を公表しているが、売上高が減少している駅ではビジネス利用の減少による影響が如実に表れている。
南委員	鉄道は、以前と比べて定期利用が86.8%、普通利用が38.2%となっており、観光利用やビジネス利用が減少しているのに対し日常利用はそれほど減少していない。しかし、コロナの影響によりリモート勤務やオンライン講義が実施される中、定期を購入しない層が生まれている。
五領田委員	目標は大切だと思うが、パターン①のように目標値が5年後も同値であるのは悩ましい。目標値設定はパターン②とし、今からどれだけコロナ禍前の状態に近づけられるかだと思う。先が読めないため、状況が変われば目標値を見直せば良い。今後もコロナ禍の状態が続くことは非常に困る。何とかしていきたい。
山本代理	目標値の指標は法改正による目標設定に対応できている。目標値設定はパターン②のコロナ禍前の水準を目指す方がアフターコロナの回復が反映されるほか、分析もしやすいため、良いのではないかと。
齋藤委員	目標値の設定は、パターン②の方が適切だと思う。本協議会は、公共交通を活性化することが使命であり、コロナ禍前を水準とした目標値を設定し、それを目指した方が良い。
紀伊副会長	皆さんからのご意見の通り、パターン②の方が適切と考える。目標値は、達成できなかったからといってペナルティがある訳ではなく、安全側に設定する必

	<p>要もない。目標達成に向け、どのような取組をしていくかということをも具体的に考えていくことが重要である。</p>
宮崎会長	<p>三豊市では、昨年初めて乗り方教室を実施したが、それまでは特段何もすることなく、コミュニティバスを運行していた。このため、現在はコミュニティバスを利用することが習慣化している人のみが利用しており、ほとんどの市民はコミュニティバスを運行していることは知っているものの、利用したことがない状況にあると考えられる。これらのことから、本計画ではパターン②をベースに、目標を越えることを目指したいと考えている。免許返納しても安心して生活できる、出歩けられるまちを目指していく必要がある。皆さんからの意見も踏まえ、計画の目標値はパターン②とし、コロナ禍前の水準を目指すこととする。</p>
	<p>3. その他</p>
事務局	<p>施策の検討の際、委員からの意見収集を実施する。次回の協議会までに個別にヒアリングをさせていただきたいので、協力をお願いしたい。</p>
五領田委員	<p>ゆめタウンの敷地内バス停には時刻表しかないため、路線図があればわかりやすく良い。</p>
宮崎会長	<p>路線図はどうかしなければならないと思っており、今年度、作成することができればと考えている。デジタルサイネージで情報提供する方法もあり、検討していただけたらと思う。施策については、福祉タクシー券のように、他の部局においても移動に関係するものがあれば情報提供していただきたい。また気づいたことや困っていることがあればお知らせいただきたい。</p>
紀伊副会長	<p>香川大学創造工学部の学生が研究で三豊市をフィールドに調査をしており、その報告結果を聞く機会があった。その報告のひとつとして、地域から免許返納したら生活をするのが大変という意見があった。運転のリスクから免許返納を促進することは必要だが、免許返納した先に活動できることを保証していくことが必要である。</p> <p>また、コロナ禍により、インターネットでの買い物が増え、免許返納する人が増えたという話がある一方で、ひきこもりの問題が発生している。公共交通と高齢者の活動とを連携させて検討していくことが有効であると考えている。ゆめタウンのコミュニティバスの乗り入れは非常に素敵な試みであり、効果についてもモニタリングしてはどうかと思う。</p> <p>三豊市が導入を予定しているバスロケーションシステムは、あった方が便利</p>

<p>綾委員</p>	<p>で利用者にとってもメリットだと思う。しかし、コストや他モード、他地域との連携の問題があり、導入の際には拡張性について配慮する必要がある。</p> <p>基本は、市民が行きたいところに行けるようにすることである。先々週あたりから、新型コロナワクチンの接種が開始された。自動車を運転できない市民を対象に、接種会場に行くためのタクシーやバスの利用を支援している。また、接種会場では待機場所のひとつとしてリムジンバスを活用している。</p>
<p>宮崎会長</p>	<p>市民が移動しやすくなれば、市外の人も移動しやすくなる。</p>
<p>事務局</p>	<p>6月4日に株式会社かもめやとドローンに関する連携協定を結ぶことになった。基本的にはドローンを活用した民間の取り組みについて、市も連携するという内容であり、ドローンをはじめとする陸海空の無人物流の先端技術の導入により地域課題の解決に取り組むものである。同社によると、栗島や志々島といった離島にドローンの定期航路をつくるのが構想としてある。</p> <p>また、香川大学創造工学部の鈴木教授と学生の研究で、免許返納しようとしている人などがどのくらいの運転レベルを有しているかペーパーテスト及び運転シミュレーターによるクロス診断により4段階の運転スキル評価として可視化できるという内容である。その評価を踏まえ、できる限り運転を継続できるような改善訓練についての研究をしている。ただ、一度に約3人、所要時間約2時間ということで限定はされるが、乗り方教室等でも実施できればと検討している。</p>
<p>宮崎会長</p>	<p>物流については、現在の航路と調整していく必要がある。</p> <p>以上で、第6回三豊市地域公共交通活性化協議会を終了する。</p>